

2024

6月

# ゆうひろば

遊通信

第 191 号



「遊」の歴代パンフレットを並べてみました  
(2024年6月1日会員総会にて)

## 特集 「遊」のこれからを考える

設立 35 周年を迎える「遊」のこれから	・・・ 2
大好きな「遊」の明るい未来を信じて	・・・ 4
「遊」の運営と事務局	・・・ 6
「遊」事務局に 1 年いて思うこと	・・・ 7
新任理事のご紹介	・・・ 8

寄稿 4学協会の研究倫理指針の脱植民地化に向けて	・・・ 10
講座報告 ハンセン病問題の現在地	・・・ 12
上映報告 筑豊から山谷へ、そして福島原発へと続く棄民の歴史	・・・ 14
リレーエッセイ 私と、さっぽろ自由学校「遊」(第10回)	・・・ 15
連載 タントアナクネピリカ(第10回)	・・・ 16
連載 フィールドワークな日々(第97回・最終回)	・・・ 17
さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ など	・・・ 18

## 特集 「遊」のこれからを考える

6月1日に開かれた通常総会では、2024年前期パンフレットの表紙問題を中心に、「遊」の在り方について活発な意見が出されました。さっぽろ自由学校「遊」は、来年2025年に設立35年となります。多くの人たちの努力で続いてきた「遊」は、未来に向けて大きな節目を迎えています。共同代表に就任した2人、事務局の2人、新しく理事になった4人に、自己紹介や、「遊」に対する思いなどを、自由に書いてもらいました。

### 設立35周年を迎える「遊」のこれから

——個々の思いを率直に語り合おう

俵屋年彦

2024年6月1日に開かれた、さっぽろ自由学校「遊」の通常総会では、参加者から「遊」の運営に対する批判が相次ぎました。議長を務めながら、来年2025年に設立35周年を迎える「遊」が、大きな岐路に立っているという思いを強く持ちました。

今回は、総会議案書の2024年度事業活動計画の中に「運営体制について」という項目を設け、理事会としての基本方針を示しました。「さっぽろ自由学校・遊」は、学びの場であるとともに、出会いの場、交流の場です。子どもから100歳を超える人まで、世代を超えた参加交流ができる場として、円滑に運営していくために、理事会の運営態勢を強化充実していく必要があります」として、(1)「幅広い年代の人をつなぐ場にする」(2)「講座内容を、ていねいに企画検討する」(3)「理事会の役割と運営を、わかりやすくする」、の3章に分けて説明しています。

今後は、総会の議論を踏まえて、理事会などで話し合いが行われます。

「遊」は、個々人の思いを大切にすることが基

本だと考えています。それぞれの意見を率直に出し合う中で、これからの遊の在り方を探っていきたいと思っています。

「遊」のホームページの「過去の講座」コーナーを見ていただけるとわかりますが、私は2012年から集中的に講座の企画と講師を担当しています。初代のホームページを作成し2年ほど運営した後は、あまり大きく「遊」に関わることはなかったのですが、東日本大震災発生後の状況を見て、市民活動にソーシャルメディアやモバイル機器を有効に活用する必要性を感じ、さまざまな実践的講座を開きました。

2015年からは、VR（バーチャル・リアリティ）を中心に、講座が続いています。主にVRをとりあげているのは、私にとって没入型VRの体験が人生最大の衝撃だったことが、大きな理由です。その生々しい体験は「現実世界」とらえ返す、相対化する大きな契機になりました。

VRは、幅広い分野で活用されていますが、私が今力を入れているのは、VRアートです。8月30日のオンライン講座で説明しますが、2

年前に学生たちと「VRアートを楽しむ会」を結成し、さまざまな場所でVRアート体験会を開いています。私たちが取り組んでいるVRアートは、モデリングではなくVR空間に書きで描きます。VR機器を使い、空中に立体的な絵を自由に描くことができます。

体験会では、子どもから高齢の方まで、みなさんが笑顔になります。絵を描く楽しさを取り戻します。発達障害の子どもたちが通っている放課後デイサービス施設で、定期的にVRアート制作体験会を開いています。引っ込み思案でなかなか絵を描こうとしなかった子どもが、初めてVR機器をつけてくれた時のことです。最初は、うつむいて小さな絵を描いていたのですが、数分経つと身体全体を使って空中に大きな絵を描き始めました。先生たちも、驚いていました。VRアート制作の確かな可能性を感じました。子どもたちは、今ではインターネットで道外のVRアーティストと一緒にVR空間で絵を描くことを楽しみにしています。新しい技術が人をつなぎ、元気にしています。技術は諸刃の剣ですが、良い面を生かしていく活動に力を入れていきます。

最初から科学技術を肯定的にみていたわけではありません。高校生の時に、レーチェル・カーソンの「沈黙の春」や石牟礼道子の「苦海浄土」

に出会い、科学技術のもたらす被害を批判する活動を続けてきました。

しかしパソコンとインターネットが登場しました。コンピュータは戦争や管理のための道具でしたが、個々人の創造力を引き出すパソコンは、新しい可能性を広げました。核戦争に備えて開発されたインターネットも、草の根の市民の努力で、地理的な制約を超えて情報を伝える人々をつなぐ画期的な技術となりました。VR・ARにも同じ可能性を感じています。

#### 「ミニミニ喫茶ひろら」とつながり

私は、大学では自らを問い返す反差別の活動に力を入れました。アイヌ解放同盟の結城庄司さんと取り組んだ「北海道経済史差別講義糾弾闘争」では、菅野茂さん、砂沢ビッキさんともお会いし、私の人生、世界観を大きく変えました。ネットワーク系ミニミニ「協働者」の1979年創刊につながっています。

大学の近くにあったミニミニ喫茶「ひろら」では、さまざまな活動と出会いました。「遊」設立の大きなきっかけとなった1989年の「ピブルズプラン21世紀」とも、「ひろら」の人的つながりの中で関わることになりました。私は、市民の立場で聞き取り調査を行う「出会いと解放のアクション・リサーチ」を中心に活動しま



1996年5月25日にミニミニ喫茶「ひろら」で開かれた「第1回レズビゲイ・プライド・マーチ札幌」第1回実行委員会に参加しました

した。個人の自発性を大切にする「ベ平連」の柔らかさと女性解放運動のしなやかさ、そして北海道という地域性。それらが「遊」を育んできたと思っています。

かけがえのない一人一人、多様な身体を持った当事者の意見を尊重する。多彩な出会いによって続いてきた「遊」の幅広い活動を、新しい環境の中で、さまざまな壁を溶かしながら、さらに開いていけたらと思います。「遊」に関わるそれぞれの熱意を大切にしながら。

俵屋年彦（たわらやとしひこ）  
FM三角山放送局パーソナリティ、さっぽろ自由学校「遊」共同代表



特集

「遊」の明るい未来を信じて！

雨宮恭子

会員総会の準備で一杯一杯になっているところに、依屋さんから「雨宮さん、今度のゆうひろばの原稿を書いてくれないかな?..」と言われ、うかつにも勢いで引き受けてしまった。しかし、総会が議論百出で大荒れに荒れやっと思つたら、休む間もなく1回目の理事会の準備に追われる毎日。やらなければならぬことが山の様にあり、「ええっ! ゆうひろばの原稿2600字!! そんなだからと何を書くんだ。就任のあいさつと所信表明ならその半分で十分と意義を申し立てたが、却下!」すでに編集会議で割付が決まっているよう。止む無し! もう腹をくくって書くしかない!

自己紹介

雨宮恭子と書いて「あまみやきようこ」と読みます。よく「あめみや」と読む人がいるがちがいます。

生まれは勇払郡早来町(現安平町)字富岡。僻地で、小学校では3年生まで複式学級でした。(児童の人数が少ないため1年生と2年

生で1学級級という体制)だから、3年生で割り算を習等変則的なカリキュラムで授業を受けました。でも自然の中で、午前中いっぱい作業や散歩をしたり、保育園みたいな自由な小学校生活を送りました。

5・6年の時の担任の先生は20代後半の苦勞人(絵の道を志して代用教員をしながら作品を描いていた)で、戦後民主主義の影響を色濃く受けていました。授業中に安保条約の話をしたり、無着成恭のやまびこ学級の影響が「学級憲法」というものを作り教室の一番前に掲示していました。第1条が「いつでも助け合っていこう」、最後が「いつでも響き合っていこう」でした。

中学時代は大学闘争や高校闘争が日本中を席巻していました。中3の1月、安田講堂に立てこもった学生を機動隊が排除するのをテレビで見ました。その後高校に入学してから、卒業式で授与された卒業証書をその場で破るということが珍しくなかったことを知りました。今年度の前期の講座「憲法を武器として」の飯塚秀孝さんは高校の先輩です。彼の後輩

やはり映画を作っている沢則夫さんは私が入学した時の生徒会長でした。最初のアッセンブリーの時に彼が書いた前年度の卒業式の答辞を読んでもくれました。(当時アッセンブリーという集会の時間があり生徒会が自由に運営していた)制服の問題、それが学校間の序列や差別につながっていること、定時制と全日制の差別や交流のなさ等をはっきり言い切っていて衝撃を受けました。このこと大きな影響を受け、社会の動きをしっかりと見抜こうとする姿勢を持たなければだめだと思ふになりました。

「遊」とのかかわり

私が大学に入学した頃は学生運動は下火でウーマンリブの運動がさかんになっていました。デモや集会が頻繁に行われていて私も共同生活や共同保育をしているところに遊びに行ったり、リブキャラバンについて行ったりしました。その頃知り合った人たちの何人かが後に遊の結成に関わるようになるのだと思います。私は「8年に大学を卒業し地方に就職したので、札幌から離れます。だから遊の結成や初期の活動には関わっていません。その後の記憶があいまいですが、転勤で札幌近郊に戻り遊に顔を出した時、若い世代

に歴史を伝えようという主旨で戦後50年を振り返る講座の準備をしていて、私がテーマの一つに「ウーマン・リブを入れて欲しい」と言ったのがきっかけで、その一部を担当することになりました。その後、当時事務局だった都築さんに誘われて、ウーマンリブの講座やセクシュアリティの講座をやったり、関係の読書会をしたりしました。自分が関心のあつたテーマをみんなで学ぶことが楽しかったです。

大好きな「遊」こんな風に変わって欲しい

毎日、新聞を読んだり、ラジオやテレビを見たり、映画をみたり、人と話したりしながら、「遊」でこんな講座をやつたらいいんじゃないかなとひらめくことがよくあります。社会のいろんな問題を共に考えて行ける場である「遊」というスペースが私は好きです。

私がこれからの「遊」に望むことは、もっと今の社会を切り取りその先が見えていくような講座がたくさん欲しいということです。

例えば農業と食の問題はずっと気になっています。また、今NHKの朝ドラで憲法とフェミニズムの問題が注目されているので、「遊」でも何かできないかなと考えた時「夫婦別姓の問題」が頭に浮かびました。裁判も始まり、

関心度も高くなっています。最近PARCで行っていた地方自治法の改悪の問題も「遊」で取り組んでいるマイナンバー制度の問題と関わるし取り上げて行けたらと思います。このように講座についての考えを出し合い、話し合っていける場をもっと作っていきたいです。

また、自分の主催講座や、参加した講座だけでなく他の講座についても知りたいし、講座間の関係がもっと見えてくるようなしくみができたらと思っています。今の遊は連続講座が終わるか終わらないうちに次の講座のことを考えなければならず、追われるように過ぎて行っています。一つ一つの講座についてしっかりと振り返りをしてそれを踏まえて次の講座作りをするそんな「遊」にしていきたいです。



「遊」の未来は明るい!?

6月13日第一回理事会が行われました。若い人も増えすぐ活気がありました。若い世代の提案で会議の進め方のルールも整いました。そんな理事会のいい雰囲気は会員の皆さんにも伝わり、遊全体がどんどんいい方向に変わって行けたらと思います。

雨宮恭子(あまみやきようこ)

共同代表。食べること、歌うこと、泳ぐこと、創ることが好き。

憲法を私たちの生活に!  
厚別9条の会

会員は厚別を中心に、沖縄のアメリカ兵まで約100名

共同代表 渡辺 信一

TEL.090-6218-8284 FAX.011-897-8390  
E-mail: mbwatanabe@yahoo.co.jp

生活クラブは、  
ちょっと変わった  
生協です♪  
モットーは  
「おいしくてカラダによくて  
自然を壊さない」です

生活クラブ北海道

検索



## 特集

## 「遊」の運営と事務局

小泉雅弘

1990年の設立以来、私はずっと事務局スタッフとして「遊」に関わってきた。今回、「遊」の運営のあり方について特集するにあたり、その立場からこれまでを振り返ってみたい。

1988〜89年にかけて、PARC（アジア太平洋資料センター）の呼びかけによるピープルズプラン21世紀（PP21）の大きな取り組みがあり、私もそこに首を突っ込んでいた。89年夏に北海道ではその一環として世界先住民会議が開催されたが、一連の取り組みの終了後、札幌で自由学校をはじめという話が持ち上がる。塾講師でありながらPP21で飛び回っていた越田さん（故人）や私を、文句も言わずに支えていたユウ教育セミナー（現・スコレユウ）塾長の金興<sup>キムシユル</sup>さん（故人）がこの自由学校設立のプランに呼応し、初年度は東区伏古にある塾を週一回使って自由学校「遊」がスタートした。初年度の事務局長は、金興さんとPP21でも中心的に関わっていた大嶋薫さん。私は会計だったが、塾の私の机の上に自由学校専用の電話が置かれ、事実上「遊」の事務局となった。

二年目からは、講座会場は塾を離れ、市内の公共施設などを使うようになったが、94年度までは塾が「遊」の連絡先となっており、私が事務局的な役割を担っていた。しかし、初期の参加者の中から運営

に関わってくれる人たちが現れ、講座の担当もテーマによって分担するような体制になっていった。

95年には、「女のスペース・おん」の事務所に間借りするような形で、事務所（というか電話）を喫茶ドミネ2階のアパートに移す。「おん」のスタッフにも負担をかける形ではあったが、この頃から初年度受講生だった都築さんが事務局としての関わりを深める。97年には「おん」の事務所移転に合わせて西20丁目にある心広北1条ビルに移転、99年からは単独で部屋を借りることとなり、寄付金を募って恒常的に講座ができるスペースと、有給の専従スタッフ2名を抱える体制への転換を図った。

けれども、出資金のような形で集めた寄付金は2年間で目減りし、事務所を縮小し以前のように公共施設を使う形に戻す案が浮上する。しかし、縁あって街の中心部にある現在の愛生館ビルを借りられることとなり、2001年度よりこれを拠点としている。都築さんは2008年度まで私と共に事務局を担った。端から見ると喧嘩ばかりしている事務局に見えたと思うが（まあ、実際そうだったが）、この頃に今につながる「遊」の基盤ができたことは間違いない。

その後は、滝口さんが事務局に加わり、新たな二人事務局体制が2015年度まで継続した。二人と

## 特集

## 「遊」事務局に1年いて思うこと

八木亜紀子

昨年6月より「遊」に出向して1年が経ちました。「遊」が参加する「森川海のアイヌ先住権を見える化するプロジェクト」（以下、プロジェクト）に週3日、「遊」の業務に週1日出向元の開発教育協会（DEAR）の業務にテレワークで週1日の割合で従事しています。

プロジェクトでは主にアイヌの古老の方々への「聞き取り」を複数メンバーからなるチームで担当しています。聞き取りの調整、実施記録のまとめと公開のための準備、再聞き取り、ご本人（またはご家族）による確認と同意チーム内の読み合わせ会をはじめとする会議の運営など、数多くの業務があります。

70〜90代の古老の方とのやりとりは対面と電話、お手紙が基本です。時間も手間もかかりますが、複数回お会いする過程を通して関係が築かれ、また、まとめを読んでご本人やご家族が喜ばれたり、涙を流したりする姿を目にすることもあり、責任とやりがいを感じています。一方で、昨年から今年にかけて、聞き取りをさせていただいた3名の方がお亡

くなりになったことは衝撃でした。ご本人にきちんと成果をお戻しし、「話してよかった」と思っていただけのように、迅速に作業を進めなければなりません。この7月を目途にウェブサイトで公開できるよう準備をしているところです。

「遊」の業務の範囲では、これまでに講座の企画・運営、インターン対応、各種会議や事務などに従事しています。昨年は2002年度から20年以上にわたりXOPS（ズープス）で運営されてきたウェブサイトワードプレスを用いてリニューアルしました。更新が簡易にできるよう、非常にシンプルに構成しました。

作業にあたっては「リニューアルする」と何が目的化しており、「なんのために」という目的や「なにを・どんな対象者に発信したいのか」といった方向性、さらには、詳細な予算額についても情報提供が無く、また、相談しても回答がなかったり、意思決定があいまいであったりすることに困惑しました。結果、

も子どもがまだ小さかった時期で、結構大変だった。滝口さんの退職後は、新たなスタッフを雇い入れる財政的な余裕がなかったことから振り出しに戻ったような感じで、私の一人事務局体制が続いた。

一人事務局には、正直やりやすい面もあるのだが、どうしてもできることは限られてくる。人件費が削減されたことで財政的には持ち直し、ある種の「安定」的な状況にはなったものの、運営においても、企画においても、手間のかかることは避けがちなっていたことは否めない。

そうこうしているうちに、2020年度にはコロナ禍となり、一時は教室での講座ができなくなった。「遊」では比較的早い段階でZOOMを活用したオンラインでの講座対応に踏み切ったため、コロナ禍で活動が休止してしまつことはなく、むしろ遠方の参加者を得るよい機会となった。以降、オンライン対応を手放すことができなくなったのだが、事務局としては資料やURLの送付、マイク等の機材の準備など雑務が増えることになった。2022年度からは、海外のファンドを得ての大きなプロジェクトに参画、さすがに手が回らなくなってきたこともあり、2023年度からプロジェクト業務を中心にアウト向という形で八木さんに事務局に加わってもらった。そのこともひとつのきっかけとなって、現在、理事会の動きが活発化してきた。一筋縄ではない部分もあるのだが、来年で35周年を迎える「遊」は、ひとつの転機を迎えている。

小泉雅弘（こいずみまさひろ）

さつぽろ自由学校「遊」事務局長

過去の自由学校講座のアーカイブズ以外は旧サイトのコンテンツを引っ越すだけの形になりましたが、今後は目的や方向性も議論しながらウェブの活用方法を検討していく仕組みが必要だと思います。

なお、これらの情報共有や議論の不十分さ、意思決定プロセスの不明瞭さ等は、遊の業務全体を通してみられることです。いわゆる「表紙問題」で明らかになったように、ジェンダー問題への認識をはじめとする価値観や手法の古さも否めません。2か月間に渡り複数の講座に参加したインターンの学生たちも「ユースや新しい人が参加しやすいようにするためには、参加者が自分の意見や気持ちを安心して表現できる状態にする必要があります」と提案をまとめました。

今年度から新理事らも交えて組織運営の見直しが進められる予定だそうです。長年の文化や習慣を変えていくのはたやすいことではありませんが、先日オプザバー参加した理事会では数々のチャレンジのアイデアが出されました。あと1年、どうぞよろしく願います。

八木亜紀子（やぎ あきこ）

さつぽろ自由学校「遊」事務局



# ◆稲場千夏さん

ゆうひろばをご覧のみなさん、はじめまして。今期より「遊」の理事となった稲場千夏（いなばちなつ）です。職場では平社員を貫いている身です。で、いきなり理事というのはなんともむず痒く、思わず責任感のようなものを感じてしまいます。

わたしは日々、社会に対して湧き上がる興味関心や疑問、怒りを抱きながらも、基本的にだらだらと過ごしてきました。気が向いたらデモやスタンディングに行ったりもしますが、気分的にはイマイチで、その理由を考えてきました。で、気付きました。「この気持ちを自分の言葉と行動で、もっと自由に社会へ表現してみたい！」そこで、遊の存在を思い出したのです。学べる場は山ほどありますが、自由に講座を作って仲間同士で学び合い、運動に繋がっていきける場はなかなかありません。そのことに気が付くまで、ずいぶんと時間がかかってしまいました。ずっと遊を続けてきてくれて、ありがとうございます。

わたしのように、社会への関心から一歩先へ踏み出してみたい人たちと学び合える、新しい遊を作っていきたいです。

＊以下おまけ

6月に支給される給与から、追加徴収77000円が天引きされることになってしまいました。一体、どういう仕組みでこうなったのかははっきりと分かりませんが、とにかく引かれるとのこと。嫌だ――！



# ◆平野研さん

新理事に就任いたしました平野研です。

私と自由学校「遊」との主な関わりは、2008年洞爺湖サミットがきっかけでした。2000年代は環境破壊や貧困・格差などの世界的諸問題の原因として、新自由主義などを疑問視する様々な市民運動が世界中で展開され、連携していきました。洞爺湖サミットに対しても、提言を行うアドボカシー運動や対抗運動など多岐にわたる市民が集まり、議論し情報発信を行いました。その中心の一つが「遊」だったのです。多種多様な市民運動が連携し、総合的な運動としてできたのは、ハブとして「つなぐ場」であった「遊」であり、今は亡き越田さんを中心とした関係者の人々とを「つなぐ力」であったからだと感じています。

残念ながら、現在の国際的市民運動の連携はあの頃よりは薄くなっています。越田さんであれば「バカだなあ、俺がいなくなっただからだよ」くらいは言いそうですが、移民問題や戦争、極右台頭など「分断」の流れは新自由主義とは異なる新たな形となっています。しかし同時に少数民族やLGBT+の社会化のように新たな「包摂」の可能性も見えてきています。対抗軸はわかりにくくなっているからこそ、「つなぐ場」としての「遊」の役割はますます大きくなってきています。

就任したばかりで、あまり具体的な話はできませんが、ともかく越田さんに皮肉の一つでも言えるように「つなぐ力」の一端になりたいと考えています。よろしく願います。



## 新任理事

# ◆下郷沙季さん

先月、自宅で洗濯物を干しているとき、踏み台からうっかり落ちて尻餅をつきました。ハツとして左の前腕を見ると、なんとS字になっている…。粉砕骨折でした。入院・手術を経て最近ようやくパソコンで文字が打てるようになり、こうして原稿を書いています。

腕一本動かせないことがこんなに大変だとは。友人が髪を洗ってくれる。同僚がカップ麺にお湯を入れてくれる。上司が傘を開いてくれる。カフェの店員がドアを開けてくれる。こうしたフォローに毎日驚きます。

でも考えてみると、苦手なことはもともとありました。整理整頓、忘れ物しない、力仕事・スケジュール管理…。いろんな人にフォローしてもらい、私も他の人をフォローしながら生活しています。以前、苦手な食器洗いをしていたら、「一緒に住んでいた友人に言われました。『どうしてやりたくないことやの？俺は食器洗いが好きだからいつもやってる。やりたい人がやればいい』。うーん、たしかに…。みんなやりたくなかったら困るけど（笑）。

理事の仕事はやりたいたからやってみます。他の理事もそうかな。でも何かを一生懸命やっている、やりたくないことまで無理してやってしまうことがあります。せっかく15人もいるのだから、それぞれがやりたいことや得意なことを気持ちよくやってフォロワーしあえるよう工夫したいです。



# ◆田村リエ子さん

私が「遊」を知ったのは、2021年の「核」ミニ講座の記事でした。この記事を見つけたとき、「何が何でも参加したい！」と思ったのです。

それまでは、TVや新聞、著書から情報を知るのみで、本当に知りたいことを知ることに壁を感じていました。

ところが「遊」のパンフレットには、核ゴミ以外にも知れたかったことが並んでいたのです。そして参加者と話をするうちに、さらに知りたいことが増え、講座を企画することとなりました。その作業は私にとっても大変で、地獄といってもよい程苦なことばかりでした。が、また次の企画時期になると、知りたいことが出てきて地獄のループを繰り返し、今に至っています（今回の講座は半導体です）。

「遊」に関わったことで気づいたことは、普段の生活で社会問題や政治的なことを話さないことに慣れていたこと。社会の規制が強くなり、声を上げることが難しくなっていることでした。今は気づけたことで、「遊」以外の活動にも参加しています。

多様性を尊重する「遊」に出会えたことに感謝し、また「遊」を知らない方やハードルが高いと感じている方に、ぜひ参加してもらいたい！ハードルは田村がさげます（笑）。

「遊」は、みなさんに開かれた大切な「市民がつくる、市民のための学びの場」です！





寄稿

## 4 学協会の研究倫理指針の

## 脱植民地化に向けて

丸山博

2024 年 4 月 13 日、「アイヌネノアンア イヌー人が人であるための学問を問う会」(代表 木村二三夫氏)が、日本人類学会、日本文化人類学会、日本考古学協会と北海道アイヌ協会の 4 学協会を招き、その「アイヌ研究に関する倫理指針」について公開対話集会を開催した。日本人類学会は 1 名だったものの他の団体からは其々 2 名の代表者が出席し、会場にはアイヌや琉球の活動家を含む総勢 90 名が集まった。琉球民族の渡名喜隆子氏の司会の下、木村二三夫氏の開会の挨拶に続き、2 人の研究者が対話に資するべく、それぞれの見解を述べた。まず、北海道大学教授の加藤博文氏が倫理指針の要点を説明し、私が倫理指針の主要な問題点を指摘した。

続く対話集会の第一部すなわちアイヌ・琉球民族と 4 学協会との対話及びその後の一般市民を含めた対話集会(小泉雅弘氏司会)を通して、当事者は各学術団体の代表者に植民地主義的研究への不誠実な対応を訴えた。すなわち、東京新聞 (<https://www.tokyo-np.co.jp/article/322683?text=kinara>) や北海道新聞が報じたように、「現在の植民地主義的な研究倫理指針に基づく研究を始める前に、遺骨の盗掘や言語・文化の搾取など研究の名の下にアイヌ民族に対して行われた歴史的不正義を認め、それに対処することが先決である」という主張がなされたのである。さらに、アイヌの活動家たちは、「北海道アイヌ協会だけでなく、他のアイヌの団体も研究倫理指針の策定に加える」よう要求した。4 学協会が先住民の権利に関する国連宣言を尊重するというのであれば、これらの主張や要求は無条件で受け入れられなければならない。

6 月 7 日、木村二三夫氏と本田和義氏、私は、加藤博文氏を北大に訪ね、上記の 4 学協会に公開質問状を送付するようお願いした。回答は 8 月末とし、年内には再度、公開対話集会を開催するということでも両者の間で大筋の合意が得られた。なお、以下に、公開質問状の本文を示す。



2024 年 4 月 13 日「人が人であるための学問を問う会」(於：札幌エルプラザ・環境研修室)

4 月 13 日、貴学協会の「アイヌ民族に関する研究倫理指針」を巡り、日本のセトラ・コロナリズム(入植者植民地主義)の下で土地や名前、言語、文化を奪われたアイヌ・琉球民族と貴学協会との話し合いが公開で行われた。東京新聞と北海道新聞がそれぞれ一面で報じたように、メディアの関心は高く、研究倫理指針に批判的な論調であった。それは参加したアイヌ・琉球民族の声の反映であり、市民社会の受け止めでもある。

私たちは、その後、録音された全ての意見を吟味し、次のような質問にまとめた。貴学協会が上記の研究倫理指針

でアイヌの同意を基本原則として位置づける以上、誠意をもつて答えてほしい。回答期限は 8 月末日とする。なお、私たちの質問書は、1980 年に北大の研究者によって盗掘されたアイヌ遺骨の返還運動を始めた海馬澤博さん、その後、北大を相手にアイヌ遺骨の返還を求めて裁判を起こした小川隆吉さん、城野口ユリさんから私たちアイヌの先達や、京大を相手に琉球民族遺骨返還訴訟に中心的に関わった琉球民族の玉城毅(たまぎし)くつよしさん、亀谷正子さん、松島泰勝さんらの意思を継いだものであることを付記する。

1 アイヌに関する新たな研究を進める前に、貴学協会のうち北海道アイヌ協会をのぞく 3 学協会は学問による過去の不正義について向き合い、謝罪すべきである。人類学の学問的業績が、墓からの盗掘という犯罪的行為の上に成り立つものである限り、アイヌのみならず、市民社会においても断罪される。それはセトラ・コロナリズムがポストコロニアルやディコロニアルという新たな概念によって後年批判されたことと同じである。それが「歴史によって裁かれる」ということであり、そうして人類は過去のできごとにメスを入れ、よりよい未来を築いてきた。学問は

特権ではなく、市民社会の上に成り立ち、社会規範に従うものである。私たちは「盗ったものは還せ」というアイヌ・琉球民族の声に応えることが研究倫理の出発点だと思うが、貴学協会においてはどのように考えるか。

2. セトラ・コロナリズムのもと、度重なる強制移住によってほぼ全てのコタンが解体され、多数派社会の中に雲散霧消してしまったアイヌにとって、現行の地域返還に関する国のガイドラインに基づく遺骨返還申請はハードルが高すぎる。したがって、ガイドラインを撤廃ないしアイヌの意向に沿って見直し、申請は一方的にアイヌに押し付けるのではなく、国、大学、学会、自治体など関係者の関与と協力が求められる。再埋葬においても同様である。遺骨はモノではなく、生きた人間だったことを認識し、丁寧に扱ってほしい。不本意ながら研究対象となり土に還れなかった死者を加害者も被害者も一緒に弔う、そうして初めて両者の和解が始まるのではないか。貴学協会はどのように考えるのか。

3. 遺骨問題の解決ないしは解決の目処がついた時点で「アイヌ・琉球民族に関する

研究倫理指針」の原則の議論が進められるべきだ。その際、アイヌ・琉球民族のデータ主権を踏まえた「自由で事前の十分な情報に基づく同意」(F P I C) が最大限尊重されなければならない。それを保障するためには、研究倫理審査委員会において最低限アイヌ・琉球民族が委員の過半数を占めなければならない。決定は委員全員一致を原則とする。また、先住民に関する国連宣言第 11 条、12 条は、近代以前のアイヌ遺骨のみならず、埋蔵文化財調査の手続きを経て発掘されたアイヌの遺骨や副葬品にも適用される。私たちは新たな研究倫理指針についてはこのように考えるが、貴学協会の意見を伺いたい。

内科・神経内科  
札幌中央  
ファミリークリニック  
外来一般診療  
月火木金 9:00~11:30  
札幌市中央区南 1 条西 11 丁目  
ワンズ南一条ビル 6 F  
TEL. 272-3455

丸山 博 (まるやま ひろし)

室蘭工業大学を定年退職後、北欧の研究者やアーティストらとともに国際研究センター CEMiPoS (<https://cemipos.org/>) を立ち上げ、脱植民地化をめざした国際会議の開催や学術書の出版などを行っている。



講座  
報告

## ハンセン病問題の現在地

## 七尾 寿子

## ■ハンセン病市民学会全国交流集会in北海道

5月11、12日と札幌で開催されたハンセン病市民学会は、国が「らい予防法」を違憲と認めた2001年から4年後、2005年に立ち上げられた。「まだまだ道半ばのハンセン病問題の全面解決を目ざして、市民が交流、提言、検証を柱に集う場」として、年に一度、各地で開催され18回を迎えた。

ハンセン病療養所のない北海道の札幌開催、私は初めて参加したが、かでの2・7のホールも口ビーの展示も、全国から多くの参加者が集って熱気があった。だが、一切の撮影が禁止され、札幌の弁護士があちこちに立っているという、なぜか緊張した雰囲気を感じた。そのわけは、全体会の中でわかった。

前年、開催地のテレビ局のニュースに撮影お断りだったはずのハンセン病家族訴訟の関係者が映っていたと、厳しく抗議されたという。ハンセン病差別にさらされてきた家族の苦しみ、ステージの衝突の後から匿名で語られた。

ハンセン病患者として強制隔離され、回復しても社会復帰の叶わなかった人生を送った回復者の苛酷さももちろんだが、その家族、親戚も、

いじめ、破談、離婚、就職差別、地域からの排斥：未だにその差別への恐怖があると訴える。匿名は、差別からの防御だ、しかし、匿名はまた、孤立と沈黙の甘受に陥らないか、思考は渦巻いてまどまらない。

## ■連続講座「ハンセン病問題の現在地」

札幌でのハンセン病市民学会開催を受け、「遊」で、連続講座「ハンセン病問題の現在地」がスタートした。

第1回、6月2日は、東京東村山市の多磨全生園にある国立ハンセン病資料館学芸員の金貴粉（キンキブン）さんに「在日朝鮮人とハンセン病」と題して語っていただいた。在日朝鮮人の発病率が高かったのはこの病気が栄養や衛生状態の悪い場所で発病する可能性が高く、植民地支配下で生活水準を低く押し下げられていたためだったこと。日本のハンセン病政策の差別の下で生きざるを得なかったこと。年金獲得闘争の行動を起こしたこと。朝鮮語や朝鮮語点字を覚えていったのは、自分が何者であるかという人間回復であったこと。

金夏日（キムハイル）さんの短歌を紹介する。

第4回、9月24日 ハンセン病と複合的な差別―旧優生保護法の違憲性と連なるもの／秀嶋ゆかり弁護士、ハンセン病市民学会全国交流集会in北海道実行委員会委員長

## ■沢知恵「ハンセン病を生きた人のうた」コンサート

7月13日には、シンガーソングライター沢知恵さんの「ハンセン病を生きた人のうた」ピアノ弾き語りコンサートを開催する。15時開演、会場はテレビ塔下の北光教会の4階チャペル。前売2千5百円、当日3千円、25歳以下2千円。連絡先080・1898・7037（七尾）

沢さんは、パワフルに歌い上げるかと思えば、囁くように歌う。なんとも魅力的な曲作りと歌声。自作やカバーで、29枚のアルバムを出している。

その沢さん、赤ちゃんのときに牧師のお父さんに抱かれてハンセン病療養所に行った。大人になってまた訪れると「あのとえちゃんがかんなに大きくなって」と喜んでくれた。療養所では、赤ちゃんを見ることが抱くこともなかったからだ。2001年から毎年、大島青松園でコンサートを開き、2014年にはとうとう、岡山に移って長嶋愛生園にも通っている。コンサート、ラジオ、テレビ出演、ゴスペルも主宰し、さらに各園の音楽文化や園歌に出会って、大学

院で研究して本にしてみました。今年から大学で講座も持っている。

『うたに刻まれたハンセン病療養所隔離の歴史園歌はうたう』（岩波ブックレット）刊行。みなさん、一緒にコンサートを聴いていただきたい。

## ■ハンセン病胎児標本問題と優生保護法

2007年、厚労省は、各療養所に113体残されたホルマリン漬けの胎児標本の処分について一括して焼却し、お地藏さんを作るとして問題になった。実は3000体を超していたというハンセン病胎児標本問題である。厚労省との面談に向いた胎児の母である女性たちに付き添って私も座っていた。

ある女性が声を上げた。「なぜ、私の赤ちゃんは殺されなければならなかったのですか？」女性には、身ごもった体で発病し、幼い息子を置いて入所させられ、ほどなく出産した。産声を聞いたがそのまま隣室に連れて行かれてそれきり産声は途絶えた。後で「女の子だったよ」と聞いた。後年、ホルマリン漬けの赤ちゃんのガラス容器に自分の名が貼ってあると知った。「職員の方たちに恨みはない。それが仕事だったのだから。」女性の右隣に付き添ってきた息子さんが座り、左隣が私だった。それは1953年のことだったという。なんと私の生まれた年だ。一瞬、

指紋押す指の無ければ外国人登録証にわが指紋なし

本名をわがなのるまでの苦しみをいつきに語り涙ぐみたり

第2回、7月23日 無らい県運動とは何か―戦時下のハンセン病療養所の実態／草津栗生（くりう）楽泉園の重監房資料館部長、黒尾和久さん

第3回、8月27日、北海道におけるハンセン病問題と家族訴訟／ハンセン病家族訴訟北海道弁護士団事務局長の原琢磨弁護士



講演をする金貴粉さん  
(2024 年 6 月 2 日、かでの 2・7 にて)

私は、娘さんの代わりにここにいる気がした。

強制不妊手術、堕胎、早産、嬰兒殺し、らい予防法と優生保護法の名の下でハンセン病絶滅政策を遂行した厚労省は「なぜ、国は私の娘を殺したのですか」と重ねて問う女性に答えられなかった。

当時、裁判を起こしてはどうか？と問いかけた支援者に女性たちは、「10年前だったらね、もう元気がない」と言ったという。

結局、一体ずつ茶毘に付し、慰霊祭の後、納骨堂に納められたのだった。

2018年、全国で提起された優生保護法強制不妊手術違憲訴訟に、ハンセン病回復者の方の参加はない。私は、2001年のらい予防法違憲判決の謝罪、賠償が優生保護法により、性の自己決定権を奪われたことも、孕んだ命を殺されたことも、包括されているとは、どうしても納得できない。

7月3日、その優生保護法強制不妊手術違憲訴訟の最高裁判決が出る。

感染症の恐怖、罹患者への偏見、差別は、諸相に広がり、深まっている。そこで生きる／生きた人々の歴史は、今の私たちを照射している。

七尾 寿子（ななおひこ）

さっぽろ自由学校「遊」会員



## 上映報告

## 筑豊から山谷へ、そして福島原発へと続く棄民の歴史

——「山谷やまやられたらやりかえせ」上映会を企画して

小笠原純二

山岡さんは筑豊ロケ日記で「石炭産業は日本資本主義創成の要であり、そこでの囚人労働から納屋・飯場制度と確立されていく労務者支配は、強制連行において極まるが、この支配は土木・建設へと一般化されて今日の寄せ場の暴力支配の原点となっている。この支配こそ棄民政策を可能ならしめる大きな要因である」と述べている。佐藤監督が虐殺された後、彼の意志を受け継ぎ山谷の映画を完成させる為には、山谷の成立する歴史的根拠、すなわち棄民の歴史を筑豊の現在の姿に見る事でもう一度、山谷を捉え返す作業が必要だと考えたわけです。

実際、山岡さんの目論見通り筑豊でのロケは刺激に満ちたものでした。朽ちて崩れ落ちそうな巨大なコンクリートの塊が次第に草木に覆われていく様や人の営みの跡がまだ感じられる炭住の廃屋、そしてその高さの分だけ人が死んだと言われる巨大なボタ山、数多くの炭鉱遺産と言われる遺物が残されていますが、そこに犠牲になった労働者の痕跡を示すものは見えなくなっています。しかし廃墟となった風景の目に見えない裏側には語る

事を封じられた労働者達の悲しい物語りがあるのです。映画の筑豊のシーンでボタ山が出てくるのは豊州炭鉱ですが、1960年に起きた事故では67名が坑内に密閉し閉山、いまだにその亡骸は地下深く埋められたままなのです。また地元元の学校の先生の案内で訪れた強制連行された朝鮮人の無銘の墓は、今でも日本人やペットの墓に駆逐されようとしており、一握りのボタ石だけが、そこに人が埋められているという痕跡をかううじて残している。死んでもなお、差別され顧みられる事なく消されようとしている墓の地中からは死者達の恨（ハン）の慟哭が聞こえてきそうです。

閉山後の筑豊では、残された者への根深い差別と棄民の現実が重くのしかかっている、企業の撤退で仕事がなく、多くの住民が生活保護に頼らざるを得ない暮らしをよぎなくされました。そして現在の山谷も労働市場としては、ほぼ壊滅し労働者の多くが生活保護を受けて暮らす町に変わりました。くしくも筑豊と同じ運命を辿っているのです。そして現在エネルギー政策の転換によって閉山後の炭鉱から寄せ場に流れた労働者は、再び国策に

よって寄せ場と同じ重層的下請構造の企業の使い捨て労働力として原発に動員されています。

ゲストトークのなすびさんの次の指摘は懐然としました。被ばく労働においては0.1%の労働者がガンで死ぬ事を容認しているという事です。福島第一原発では四千人位が働いているので、毎年四人がガン死する数値です。これは究極の棄民労働ではないでしょうか。労働者の命の犠牲の上に成り立つ原発はやめるべきです。現在、東電を相手に白血病の労災認定の裁判を闘うあらかぶさんという被ばく労働者がいます。東電は、下請けの労災にはコメントする立場にないと責任を認めていません。あらかぶ裁判に注目し支援をお願いします。

小笠原純二（おがさわらじゅんじ）  
山谷制作上映委員会。映画「山谷やられたらやり返せ」では助監督のような役割でした。映画には神田十吾の名で参加。

## リレーエッセイ 私と、さつぽろ自由学校「遊」 第10回

なかじま けいこ 中島圭子

さつぽろ自由学校「遊」（以下、「遊」）が設立されたのは、1990年。私は、1990年から3年間札幌に住んでいましたが、その3年間「遊」の事は全く知りませんでした。

2006年8月にまた札幌に来て、先ず最初に訪れたのは「遊」の事務所でした。というのも、その前に住んでいた大阪で、恵庭O.L殺人事件のことを聞いていたり、2004年の「水俣・札幌展」のお手伝いに来ていて、「遊」ってどんな所だろう？何か情報が得られるかもしれない、とにかく「遊」に行ってみようと思ったからです。多分、「遊」の企画で最初に参加したのは、西山正啓監督の岩国の映画上映会だったと思います。「遊」でもらった「夜間中学をつくる会」のチラシを見て、翌年には札幌遠友塾自主夜間中学のボランティアスタッフになっていました。（私は、「遊」と「遠友塾」は、花崎皋平さんの双子の息子だと思っています。）

札幌に来て、右も左もわからない私にとって、「遊」との関わりが大きな糧となっていました。今思いつくことをいくつか列記してみます。

スタディツアーで初めて紋別市へ行つて、その後も何度も行くようになり、それが（もうこの言葉を知っている人もいないかもしれませんが）「モペツ・サンクチュアリ」になりました。今でも、町づくりを考える時、「自分たちの町のことは自分たちで考える」ということのきっかけになりました。

同じように、カンボジアにスタディツアーに行ったのも、「遊」を知らなかったら出来なかった体験でした。裸足で物売りをしていたあの少女はどうしているだろうか…あれからずっと気になっているけれど、まだ一度も行けないのが残念です。

水俣病に関する講座をさせてもらったのも貴重な経験でした。

そうそう、食の講座もやりましたね。「遊」の事務所移動の時に、「風下の村 チェルノブイリスケッチ」原画展をしたのも、印象に残っています。当時の教室にパネルを設営して、立派な展示室にしてくれました。貝原さんのメッセージが、今のこの国を予言しているかのようでした。

そして、多くの人と繋がりが持てるように

なったのも、「遊」のおかげです。「遊」は、市民活動の交わる場とされています。

私は、「私が変わる。世界が変わる。」というキャッチフレーズが大好きです。私は変わったけれど、世界は変わったでしょうか？私たちの望む世界は？…



後列中央が中島圭子さん





原田 公久枝  
第10回

二〇二四年三月一杯で会社をクビになり失業保険を貰い始めました。失業保険ってものをちゃんと貰うのって初めてかも？何せ元々の給料が一〇万そこそこだから失業保険で貰える金額だとすぐに生活に困るから仕事を辞めても「はい！すぐ次の仕事！」って働き詰めだったので今回はゆっくり貰ってみようかと…まあ手取り一二万で失業保険が一萬貰えるってわかったから、の話なんです。丁度旦那が入院中で週一で差し入れを持って行ったり介護認定の申請したり病院の医師やケアマネさんと話したり私の保険の切り替えだ年金だZOOMで講義だ日本文化人類学会だなんだで忙しくて「仕事辞めたら部屋掃除する！」って息巻いていたのに玄関と風呂とトイレの大掃除したつきり部屋には取りかかれていない…てゆうか家のことは旦那に任せつきりだったので、まずゴミ

を出す日を覚えて…からだったから五六才で初めての一人暮らしって感じ。  
だから料理ってものをちゃんとしたこと無かったけど、根っからの食いしん坊で、今更不味いもんなんて食いたくない！って思っているの今このところ毎日旨いものを食べている。何でも塩コショウして油で焼いたら旨いのな！野菜が残ったら皮付きのままクタクタになるまで煮てすり鉢であたってこして茹で汁に戻して温めて塩で味を調えたり、牛乳と塩コショウしてポタージュにすると野菜の甘さで旨い。天麩羅やとんかつは私の技術では無理なので専門店で食べに行くけど、家のごはんが旨いので、そんなに外食はしてない。たまに外食してトンテキとかカレードリアとかを家で再現すると店よりも旨かったりして、しかも費用は五分の一だったたりして！何でも料理して来なかったんだらう…と本気で思っている。  
いつも「今現在の生活」が変わるのがイヤな私は、退院して旦那が家に戻って来るとまたハレーションを起こすんだらうけど、旦那が帰ってきたら旨いもんを食わしてやりたいとも思う。きつと煙草が吸いたいのとビールが呑みたいのとで帰りがたがっているんだが、好きなだけ！とはいかないけど、ほどほど

オーガニック・自然食品専門店  
**らるごはん**  
おべんとうとおそうざい  
札幌市中央区大通西23丁目  
Tel 614-2406 Fax 614-3836  
http://rarubatake.com  
10時～19時(日～17時・祝～18時)

に好きなように生きて貰おうと思っている。  
一八才年上の旦那は今年で七五歳、後期高齢者だ。貧乏で思うように生きられなかった時間が長いしねえ。しかし私は部屋を片付けなければ！思うように身体が動かせない旦那が帰って来るならばトイレへの動線を最優先に邪魔なものが無いように…電動で起きられる椅子も必要かな？安くても六万円位するみたいだが介護のレンタル出来るのかな？って考えている内に旦那は要介護三に認定されました。来週、医師とケアマネさんと旦那と私で今後の話をするようになりました。入院した時は三九kgだった体重も五一kgになったし、杖をついて歩けるようになったし、良かったんだらうと思う。

原田 公久枝 (はらだきくえ)

三月一杯でクビになり失業保険を貰っています。往復一二kmの病院への差し入れや往復八kmの北大もどこに行くのも自転車爆走している五六才です。

第九七回(最終回) 使える社会学

環境問題や科学技術の問題について「科学者は正しい解決策を示しているのに、人びとの科学的知識が欠如しているので、受け入れてもらえない」という傲慢な見方を指して「欠如モデル」と言う。「欠如モデル」は通常自然科学の専門家に向けられる批判だが、社会学などの人文・社会科学の研究者にいても同じことが言える。「社会はこうなっていて、あなたたちはこういう立場に置かれている」と社会学者が断定的に言ったとしたら、それはまさに「欠如モデル」だ(市民運動も同様の「欠如モデル」に陥りやすい、と反省を込めて言っておきましょう)。

本来社会学はそんな言い方ができないはずだ。というのも、社会というものは「意味」で構成されていて、その意味は複雑に錯綜している。社会学者は、何らかのテーマをめぐって繰り広げられる多様で複雑な「意味」を「聞く」ことによって集め、そこから何かを発見しようとする。社会学者はその複雑な意味の世界の外にいるわけではないので、「聞く」



というのはつまり「対話」でしかありえない。地道な対話でさまざまな「意味」を集める。そしてそこから、何らかの発見をし、暫定的な、あくまで暫定的な提言をする。それが社会学の流儀だ。

ソロモン諸島で調査をしていた最初のころ(つまり三〇年くらい前だ)、土地所有をめぐっているいろいろなコンフリクトが生じていることを知り、それについてもつとわかりたいと思った。いろいろな住民たちに話を聞き「データ」を集めて、問題の構造を「明らか」にしたいと考えた。でも、人によって言うことが微妙に違ったりして、なかなか「本当の構造」がわからなかった。しかし、そのうちに見えてきたことは「本当の構造」なんか無い、ということだった。それぞれの認識も絶えず変化していて、はつきりした答えがあるわけではない、というのが「答」だった。

はつきりした「答」がない、意味が錯綜している社会で、しかし、自分たちで問題を提起し、解決する。それは至難の業だ。しかしそれが民主主義だ。そのときに、対話からみ

んなで規範を作りあげる社会学の技法は「使える」と思う。その「使える」社会学について、『社会学をはじめめる 複雑さを生きたる技法』ちくまプリマー新書(筑摩書房)、二〇二四年六月刊

\*二〇〇五年から二〇年間わたり書かせていただいたこの「フィールドワークな日々」、今回でいったん終了です。長らく愛読いただき、誠にありがとうございました。

宮内 泰介 (みやうちたいすけ)

1961年生まれ。さっぽろ自由学校「遊」共同代表。北海道大学教員(環境社会学)。ソロモン諸島、北海道、宮城などで環境、生活の調査中。



## 編集便り



「ゆうひろば」6月号の特集は「遊のこれからを考える」として、新しい共同代表と理事・事務局のメンバーの文章を中心として考えました。それぞれの文章に過去と現在と未来に対する思い入れを感じます。

総会の議案書にも書きましたが、「ゆうひろば」の内容は、6人の編集委員（小泉、黒田、細谷、北村、俵屋、飯島）の合議で検討し、原稿依頼者を考え、分担してお願いにあがっています。

特集では、現在の日本や世界の社会的課題・問題を取り上げ、講座関連の事柄や寄稿、リレーエッセイ、連載と続きます。「フィールドワークな日々」は、今回で最終となります。宮内さん、20年間お疲れさまでした！「対話からみんなで規範を作り上げる社会学の技法」は、今後の遊においても必要なことですね。

限られた紙面ということもありますが、会員の交流誌として継続していきたいです。ご意見等がありましたら事務局までお寄せください。

6月には必ず思いつく詩があります。茨木のり子の「六月」です。（全文は無理なので）最後はこう結んでいます。

「どこかに美しい人と人の力はないか 同じ時代をともしに生きる したしさとおかしさとそうして怒りが鋭い力となって たちあらわれる」

（北村公一）



## さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ



### オンライン開催講座（2024年7～8月開講分）

講座のお申込は、右のQRコード、または「遊」ウェブサイトよりお願いします。  
<https://sapporoyu.org/>



オンライン  
申込

### Let's Talk! 世界と出会う英語 ★アンドレス・パトリシアン

7/8、7/22、8/5、8/19 月2回月曜 19:00～

### 〈東アジアの記憶の場〉を通して考える東アジア問題

② 7/9（火）18:45～ 東アジアの記憶の場としての戦後補償裁判 ★金誠

### 政治をもっとジェンダー平等に ―議会を変え・社会を変える女性たち

④ 7/17（水）19:00～ なぜ政治の場に女性が必要か？ ★遠藤三木、山口かおる

⑤ 8/28（水）19:00～ 政治の場にもっと多様性を！ ★小林ゆうき

### 分断の壁を溶かす 時空間アートの実践 ★講師 VR アートを楽しむ会

8/30（金）19:00～

### 中国語で読み解く東アジア ★講師 朴仁哲

② 7/30（火）18:45～

※「著者と読む『アイヌもやもや』読書会」につきましては、定員に達したため、募集を締め切らせていただきました。ご了承ください。



## さっぽろ自由学校「遊」からのお知らせ

### 会場&オンライン併用講座（2024年7～8月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル5F 501 会議室にて）

講座のお申込は、右のQRコード、または「遊」ウェブサイトよりお願いします。  
<https://sapporoyu.org/>



会場（対面）  
申込



オンライン  
申込



### アメリカの歴史から大統領選と日本を考える ★講師 北村公一

③ 7/2（火）18:45～ アメリカの歴史3 ④ 8/6（火）18:45～ アメリカの歴史4

### カール・マルクス著『資本論』を読む ★チューター 宮田和保

③ 7/3（水）18:45～ ④ 8/7（水）18:45～

### 超入門！ ハングル ★李 誠（Lee Sung）リ・ソン

7/10、7/24、8/7、8/21 月2回木曜 19:00～

### 漫画『ゴールデンカムイ』と出会い直す

③ 7/12（金）18:45～ 漫画はアイヌをどう描いてきたか？金カム以前の「名作」たち ★長岡伸一

④ 8/9（金）18:45～ 北風磯吉・明治から昭和を生きたアイヌ ★鈴木邦輝

### 人と動物との共存・共生をめざして part 4

③ 7/13（土）13:30～ 「タンチョウ鶴居モデル」の構築をめざして ★音成邦仁

④ 8/10（土）18:45～ 動物法への第一歩 ★本庄萌

### 半導体産業の地政学的リスクと未来展望を考える

③ 7/16（火）18:45～ TSMCで熊本の地域はどう変わるの!? ★嘉藤和治、岩田智子

④ 8/20（火）18:45～ ラピダスで千歳の地域はどう変わるの!? ★相沢晶子

### このままでいいの？ 再生可能エネルギーの進め方 part14

③ 7/18（木）18:45～ 住民無視で進められる木質バイオマス発電所の実態 ★花石恵子

④ 8/22（木）18:45～ 希少種調査と地域連携で再エネ乱開発い立ち向かう ★小山正人

### ハンセン病問題の現在地

② 7/23（火）18:45～ 無らい病運動とは何か ★黒尾和久 \* 於：札幌エルプラザ中研修室

④ 8/27（火）18:45～ 北海道におけるハンセン病問題と家族訴訟 ★原琢磨

### 先住民族の森川海に関する権利 4 ―海とアイヌ民族

③ 7/26（金）18:45～ 白糠におけるアイヌ文化と海 ★磯部恵津子

④ 8/23（金）18:45～ 海で生きるアイヌ漁師集団 ★差間啓全ほか

### 札幌貧困状況地図

③ 7/27（土）14:00～ 若い世代の生きにくさに寄り添って ★屋代通子

④ 8/24（土）14:00～ 貧困者に寄り添い続けて ―ベトサダの活動 ★菅原勇也

### 私たちは沖縄の現状にどう向き合うべきなのか

④ 7/29（月）18:45～ リベラルと違う立ち位置で考える基地引き取りとは ★中村之菊

⑤ 8/26（月）18:45～ 人とのつながりが私を基地引き取りに導いた ★日野晴美





## さっぽろ自由学校「遊」 からのお知らせ

### 会場開催講座（2024 年 7～8 月開講分）

（会場記載のないものは愛生館ビル 5 F 501 会議室にて）

講座のお申込は、右の QR コード、  
または「遊」ウェブサイトよりお願いします。  
<https://sapporoyu.org/>



会場（対面）  
申込



### アイヌアートデザイン教室 ★講師 貝澤珠美

毎月第二・第四水曜 13:00～

### 花さんの詩の世界 於：花崎さん宅（小樽）

③ 7/11（木）14:00～ ④ 8/8（木）14:00～

### 老いと向き合う part11

③ 7/5（金）14:00～ フレイル予防について ★渡邊一栄

④ 8/2（金）14:00～ 「ばけの壁」読書会と交流会 ★細谷洋子

### 「遊」版うたごえ喫茶 2024 於：愛生館サロン（愛生館ビル 6 F 南側奥）

④ 7/19（金）14:00～ ⑤ 8/23（金）14:00～

### 読書室 よりみちまわりみち

④ 7/20（土）14:00～ ⑤ 8/17（土）14:00～

### ハンセン病を生きた人のうた 沢知恵 ピアノ弾き語りコンサート

7 月 13 日（土）15 時開演 14:30 開場

札幌北光教会 4 階チャペル

一般前売 2,500 円 当日 3,000 円

25 歳以下 2,000 円

オンラインストア・窓口 TEL.0570-00-3871

セコマコード D24071302

### 石狩バスツアー

—再エネ基地化する新港周辺と  
石狩アイヌゆかりの地を訪れる—

7 月 6 日（土）9:00～16:00

集合 8:45 JR 札幌駅北口団体バスターミナル

参加費 4,000 円（現地徴収）

申込はウェブサイト <https://sapporoyu.org/>

または上記 QR コードより

### 自然食ホロ



札幌市東区中沼西  
5 条 2 丁目 3-16  
TEL: 887-6224

いつも喜んで、  
感謝して。

<http://holo.sunnyday.jp/>

### いつだって No Nuke !



北海道のエネルギーの未来を考える  
10,000 人の会

Simple Life, High Thinking



小 4 から高 3 まで



スコア レ ユウ

〒007-0866 札幌市東区伏古 6 条 4 丁目 4-21  
TEL. 785-0228

ゆうひろば

発行：NPO 法人さっぽろ自由学校「遊」

〒060-0061 札幌市中央区南 1 条西 5 丁目 愛生館ビル 5 F 501

・郵便振替口座：02780-5-47036（名義：自由学校「遊」）

・TEL:011-252-6752

・FAX:011-252-6751

・syu@sapporoyu.org

・<https://sapporoyu.org>



web サイト



F B ページ